

# 市長の「ホッ」とトーク



(最終回)

## 長崎進化論

### 長崎は港町

港あり  
異国の船をここに招きて  
自由なる町を開きぬ  
歴史と詩情のまち長崎  
世界のナガサキ・・・

私の大好きな言葉です。  
長崎学の泰斗・古賀十二郎先生の  
この言葉にあるように、長崎の特異  
な歴史は港から始まりました。  
それから今日まで450年の歴史  
を貫く長崎のアイデンティティーは  
「港町」。ただ、沿岸の波が押し寄せ  
る、ふつうの港町ではありません。  
世界の波が押し寄せる港町です。  
「ロンブスやマゼランが活躍した  
「大航海時代」の波が日本に押し寄  
せた時に、長崎にポルトガルの船が

やって来ました。船を迎えるために  
港を開き、長い岬に新しい町を建て  
ました。これが450年ほど前の「長  
崎開港」と「町建て」です。

そこから始まる長崎の歴史はどこ  
にもないユニークなものです。そし  
てその歴史の中で、長崎には「和華  
蘭文化」と呼ばれる独特の文化や、  
おもてなしの市民性が育ちました。

### 大きな波を何度も体験

今日までの歴史の中で、長崎は何  
度もまちがひっくり返るほどの変化  
を体験しました。

小ローマと呼ばれるほどの教会の  
まちだったのが、キリスト教は禁止。  
ポルトガルのために出島を築くと、  
すぐにポルトガルとの国交は断絶。  
幕末には、開国によって、西洋に開  
かれた唯一の港ではなく、鎖  
国の特権を失いました。

こういう大きな波を、そのたびに  
乗り越え、進化してきたのが長崎の  
歴史です。

それだけではありません。  
かつては宗教間での激しい争いが  
ありました。居留地時代には、コレ  
ラなどの感染症が海外から長崎に入  
り、長崎から全国に広がりました。  
原爆による惨禍も体験しました。

それらの悲しい歴史を乗り越え  
て、今は宗教の違いを超えて集まる  
宗教者懇話会が、平和のために一緒  
に活動しています。感染症研究の最  
先端をいく長崎大学があります。平  
和都市として広島とともに核兵器廃  
絶を発信しています。

宗教も、感染症も、核兵器も、世  
界と共有するテーマです。それらが  
もたらす困難を経験し、それを乗り  
越えて、その経験をもとに世界に貢  
献しようとしてきたまち。  
長崎はそんなまちでもありません。

### 今、また進化の時

そんな長崎に、今、静かに新たな  
進化の時が訪れています。

これまでと同じように、歴史の中  
で培ってきた「まち」と「人」と「産  
業」の力を足掛かりに、長崎を次の  
時代にふさわしいまちに進化させる  
時です。

\* \* \*  
長い間「ホッとトーク」をご愛読  
いただき、ありがとうございました。  
長崎市長としての残された任期  
が、あとひと月になりました。4期  
という長い間、歴史ある長崎市、大  
好きな長崎市の市長を務めさせて  
いただいたことを光栄に思います。そ  
して、機会と時間を与えていた  
き、ご協力いただいた市民の皆さま  
に重ねて感謝申し上げます。  
16年間、本当にありがとうございました。



南蛮人來朝之図(長崎歴史文化博物館収蔵)

